

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人北海道教育大学

1 全体評価

北海道教育大学は、「人間と地域の成長・発展を促す大学」として、教育研究の質的転換を実行し、社会が求める課題に積極的・能動的に取り組む学生を育てる責務を果たすことを目指している。第3期中期目標期間においては、高大接続を見据えた入学試験改革、“新たな学び”に対応するためのアクティブ・ラーニング、ICT教育等を取り入れたカリキュラム改革や、大学院改革断行による教職大学院の充実及び教育委員会等との連携協力関係の深化による研修の大学院レベル化、「グローバル教員養成プログラム」の着実な遂行によって小学校英語の授業を確実に実施できる教員の養成等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、新たなディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）を策定し、これらのポリシーに基づき、カリキュラム全体の見直しを行い、カリキュラムツリー及び科目ナンバリングを導入するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 外部評価委員会からの授業科目の関連及び順序性等の指摘を踏まえ、教員養成改革協議会において検討を行い、新たなディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）を策定し、これらのポリシーに基づき、カリキュラム全体の見直しを行い、カリキュラムツリー及び科目ナンバリングを導入している。これにより、体系化された教育課程を構築するとともに、教養教育を含めたカリキュラム全体を改善している。（ユニット「教育研究及び大学教員の資質向上並びにカリキュラム改革のPDCAサイクル確立を含む総合的・抜本的教員養成改革」に関する取組）
- へき地・小規模校教育に関する専門的教育及び研究を推進するとともに、他大学や地域と連携して、学校教育や現職教員の実践的活動への支援を行うことを目的として、新たに「へき地・小規模校教育研究センター」を設置しているほか、「へき地・小規模校教育推進フォーラム」を新たに開催し成果を発信するとともに、各教員への活動支援、他大学・地域とのネットワーク構築等の取組を行っている。（ユニット「学校現場や地域における課題を解決する研究の推進」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ IR室及び戦略チームを活用した取組

大学戦略本部に戦略チームを設置し、IR室と連携を行い、施策の企画立案・実施をしている。大学院改革チームにおいては「教職大学院の教育課程の見直し」等の検討を進め、令和2年度に教職大学院のコース見直し、令和3年度に修士課程の教員養成機能を教職大学院へ移行する大学院改革計画を策定している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ 内部質保証システム構築に関する取組**

大学戦略本部に置く質保証システムマネジメントチームにおいて「国立大学法人北海道教育大学内部質保証に関する規則」を制定し、自己評価の結果に対しては、従前から実施している外部の有識者及びステークホルダーが点検及び評価を行う外部評価を組み込む等、内部質保証の方針、実施体制・方法等を規定している。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「21世紀型学力」育成のためのカリキュラムの実践及び普及

平成29年度に函館地区の附属学校で「21世紀型学力」育成の小中一貫を目指す教育課程として作成した『「情報活用能力」育成のためのカリキュラム表』を、札幌・旭川・釧路地区の各附属学校園に配付し、函館地区を含めた全地区の学校において実践・検証スケジュールを作成している。また、北海道教育委員会との連携事業「授業実践交流事業」に基づく出前授業や研修・研究会、授業力向上セミナー等において、カリキュラム表に沿った授業実践を行い、地域の公立学校に対しても積極的に発信している。